

2017年8月9日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 作本 直行

イラン国シャヒード・ラジャーイー発電所建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年7月28日(金) 14:05～16:57
- ・場所：JICA 本部(1階 111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、長谷川委員、福嶋委員
- ・議題：イラン国シャヒード・ラジャーイー発電所建設事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：イラン国シャヒード・ラジャーイー発電所建設事業 SC 案回答表、別添資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第82回委員会)

- ・日時：2017年8月7日(月) 14:30～16:16
- ・場所：JICA 本部(1階 113会議室)

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

全体事項

1. 経済産業省・環境省発表の発電所設置に関する BAT (Best Available Technology) (平成 29 年 2 月時点) を参照し、できる限り環境に配慮した技術を検討し、その結果を DFR に記述すること。
2. 既設発電所の施設内と周辺における環境状況を確認し、これを DFR に記述すること。
3. 電力需要増加率実績値及び 2021 年以降の将来にわたる電力需要増加率予測値について、DFR に記述すること。
4. 「プロジェクト評価に係る検討」の経済評価では、環境対策経費の他、本事業の環境負荷コストや環境的便益も可能な限り算定し、費用便益分析に内部化し、DFR に記述すること。
5. 想定される汚染物質の排出量、排出ガス量、排出ガス速度、排ガス温度及び煙突高さの諸元等のデータをもとに、入手した気象条件を用いて新設及び既設についてシミュレーションを行い、累積的影響を評価し、DFR に記述すること。

代替案の検討

6. BAU (Business as usual＝特段の対策のないケース) を確認の上、現状から想定される将来水準の状況と比較し、より環境に配慮した技術が適用されることを確認して、これを DFR に記述すること。

スコーピングマトリクス

7. 灌漑用水に利用される排水の基準値への適合状況について、測定データを入手し、DFR に記述すること。
8. 振動及び悪臭の基準が整備されていないので、これを補完するため、国際機関・日本・欧米等の基準を参照し、DFR に記述すること。
9. イスラム教シーア派下のイランで女性の参加を確保するため、ステークホルダー協議ならびにほかの形での参加を推進する方法について可能な限り検討し、実際に採用された場合のアンケート調査の成果と併せて DFR に記述すること。
10. SC 案の「想定される評価」について、より具体的に、評価方針、評価基準等を DFR に記述すること。
11. スコーピング表の「越境の影響、気候変動」で、本事業では、従来型の同出力の火力発電所を建設する場合よりは、温室効果ガス排出量が少ないと想定される旨、DFR に記述すること。

環境配慮

12. イランにとって貴重な地下水が採取されているので、循環型で再利用する、または農業用に最大限利用するなどの方法を検討の上、DFR に記述すること。
13. ボイラーの燃焼灰、廃油等の有害廃棄物が排出されるので、その処分方法や Boo 市施設の処理能力が十分かどうかについて調査・確認し、DFR に記述すること。

14. 北西側及び東側等の集落について、大気質の測定を行い、汚染状況を確認するため、風向・風速データを使用し、既施設も含めて周辺居住地への環境影響に関するシミュレーションを行い、DFR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

15. リーダーだけでなく、リーダー以外の人々にも必要な情報がいきわたるための工夫について、DFR に記述すること。

以 上